



# 「10月1日は東京湾の日」 写真コンテスト審査結果・発表

東京湾再生官民連携フォーラムは、  
10月1日はトウ(10)ワン(1)で「東京湾の日」とすることを昨年発表しましたが、  
より多くの皆様に、東京湾の日を衆知してもらうことを目的に、  
本年は東京湾をテーマにした「川柳と写真コンテスト」を開催いたしました。  
このうち写真については9月23日に応募が締め切られ、  
厳正なる審査の上、下記の通り審査結果を選出いたしましたのでお知らせします。

## 【コンテストの概要】

イベント名: 「10月1日は東京湾の日」第1回 川柳&photo コンテスト

主催: 東京湾再生官民連携フォーラム

募集期間: 令和3年8月5日~9月23日

公募方法: ホームページ、SNS およびポスター、チラシ配布

応募総数: 34点

審査員: 田久保雅己 審査委員長/東京湾再生官民連携フォーラム企画委員  
東京湾大感謝祭実行委員会委員長/株式会社舵社 編集長  
木村尚 審査委員/東京湾再生官民連携フォーラム企画委員  
東京湾大感謝祭 PT 長/NPO 法人海辺づくり研究所事務局長  
岡島達男 審査委員/国土交通省関東地方整備局 港湾空港部/事業継続計画官

審査基準: 「10月1日は東京湾の日」をイメージする誰にでも分かりやすい構図、東京湾を美しく  
豊かな海へ再生することや、持続可能な海洋環境保護活動の必要性を感じる写真

表彰式: 10月16日(土)横浜大さん橋ホールで開催される東京湾大感謝祭のオンラインイベント  
のステージにおいて、表彰式の模様をライブ配信します

## 【審査結果】

### 大賞 タイトル「魚、とれるかな？」（大森ふるさとの浜辺公園）

小山文大さん撮影



#### 審査員のコメント：

◎泳げる浜辺は長く東京の目標でしたから、投網からも、魚がいることが分かりますし、それにも増して子どもたちがたくさんいるのが嬉しい里海の光景だと思います。海に触れ、楽しみながら守っていく。あるいは再生していく東京湾の根拠であってほしいと思います(木村)

◎投網が広がっていく瞬間をとらえた動きのある構図。青空、雲、ライフジャケットの黄色も鮮やかな、良い写真だと思いました。砂浜も水もきれいなんだなあと思いました。東京湾の水辺でこんな触れ合いができるというのがわかる場面が伝わってきました(岡島)

◎応募作の多くは東京湾の海の風景でしたが、子供たちの動作をとらえた躍動感のある構図に目を奪われました。どんな魚がとれたのでしょうか(田久保)

## 佳作 タイトル「富津のブルーカーボン」(富津干潟アマモ場)

末岡一男さん撮影



### 審査員のコメント:

◎富津干潟のアマモ場とスタテですね。この干潟とアマモ場があることで、東京湾の環境が維持されていると言って過言ではないですし、実に美しい里海の光景だと思います(木村)

◎アマモがたっぷり種を付けて、田んぼの稲のように育っている景色で、水もきれいだし、こんなところはなかなか見られない貴重な写真だと思いました。青空に反射した空や雲もきれいで奥行きがあって良い写真だと思いました(岡島)

◎東京湾のアマモ場をこんなに美しく撮った写真は見たことはありません。海外の人に、これは東京湾の風景の一つです、と見せたらさぞ驚かれることでしょう!(田久保)

## 佳作 タイトル「トビハゼ」(東京港野鳥公園)

大槻広太さん撮影



### 審査員のコメント:

◎トビハゼですね。南から西日本までにはいて、それより東はずっといなくて、東京湾の江戸川放水路、東京港野鳥公園、多摩川河口にだけいるので、東京湾の固有種とされています。締まった泥干潟にしかいないので、大切にしていきたいですね(木村)

◎撮影した大槻さんによると「なかなか見つからなかったもので、見つけたときは感動しました」とのこと。東京湾でしか見ることのできない固有種。可愛さは癒しでもあります。見ていてほのぼのとする東京湾の写真もいいですね(田久保)

## 佳作 タイトル「一緒に潮干狩り」(千葉・三番瀬)

石川新さん撮影



審査員のコメント:

◎こんなに近くに鳥が沢山いるのに驚きました。東京湾にこんなところがあったのかと思いました。奥の人がそんな印象を引き立てていて良い写真だと思いました(岡島)

◎撮影した石川さんによると「貝を取りに来た人と、渡りのシギたちが一緒に干潟にいるのがとても面白かった」とのことです。人と生物の共存が、東京湾でも見られることを表している写真です(田久保)

令和3年10月4日

「10月1日は東京湾の日」写真コンテスト

審査委員長 田久保雅己